

2023年2月18日



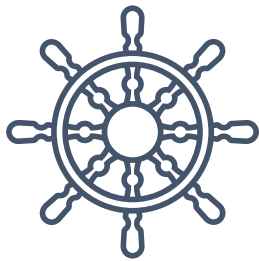
日本赤十字看護大学附属  
災害救護研究所

JAPANESE RED CROSS COLLEGE OF NURSING  
DISASTER MANAGEMENT RESEARCH INSTITUTE

# 心理社会的支援部門 R4年度活動報告

心理社会的支援部門長  
森光 玲雄

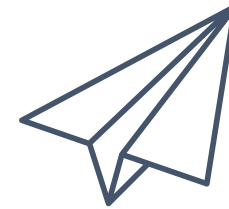
# キーマッセージ



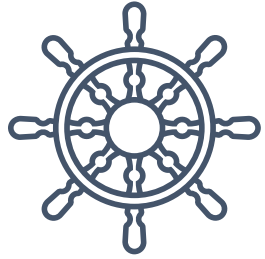
ビジョン



プロジェクト



社会貢献と  
情報発信



# Our vision

---

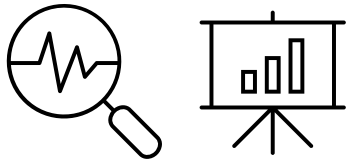
【ビジョン】 災害等の危機的状況下で、心理・社会面のウェルビーイングをいたわる、「人」にやさしい支援カルチャーを育む。

【ミッション】 災害時の心理・社会的側面についての知見の集約と発信に取り組むことで、災害時の心理社会的支援分野の発展スピードを速める。



# What we do

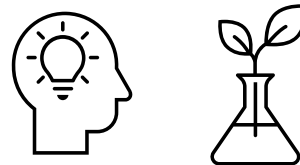
## リサーチ



### 後ろ向き

(活動の分析評価による教訓の抽出)

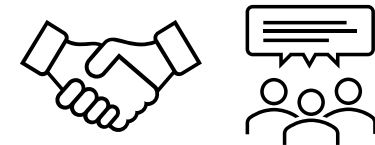
## リソース開発



### 前向き

(ガイド・リソース・モデル等の開発)

## コンサルティング



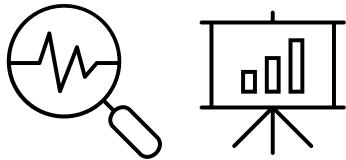
### 現場の今の困り事

(関与しながらのテクニカルな伴走支援)



# Projects

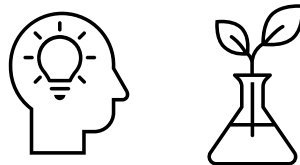
## リサーチ



### 後ろ向き

(活動の分析評価による教訓の抽出)

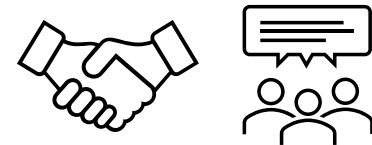
## リソース開発



### 前向き

(ガイド・リソース・モデル等の開発)

## コンサルティング



### 現場の今の困り事

(関与しながらのテクニカルな伴走支援)



# 支援者のメンタルヘルス問題

---

- ・ 人道支援セクターの79%のスタッフがメンタルヘルス上の不調経験<sup>1</sup>
- ・ 主たるストレス要因は職業性ストレス<sup>2</sup>
- ・ 医療従事者におけるバーンアウト疫学調査例:
  - ✓ オーストラリア1年目研修医:28~61%<sup>3</sup>
  - ✓ アメリカ外傷センター看護師:36%<sup>4</sup>

(Source)

1. Global Development Professionals Network, 2015
2. Adamcikova M. Well-being or ill-being? 2019
3. Willcock et al. Medical Journal of Australia, 2004
4. Hinderer et al. Journal of Trauma Nursing, 2014

“

# Ending burnout culture in the aid sector.

(支援セクターにおけるバーンアウト文化を終わらせよう)

”

(Source) Gemma Houldey : The Vulnerable Humanitarian, 2021

➡ コロナでは？ リサーチの力で覆いを取る。



# Projects

【リサーチ】コロナパンデミックの心理社会的影響  
～医療従事者のメンタルヘルスと支援者支援の実態調査～

コロナ患者対応医療従事者のうち...

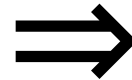
<感染拡大初期>

「**31%** バーンアウト  
(看護師47%)」

@聖路加国際病院(2020年4月)<sup>1</sup>

「**27.9%** 抑うつ」

@日赤医療センター(2020年4-5月)<sup>2</sup>



<3年経過>



(Source)

1. Matsuo et al. JAMA network open, 2020

2. Awano et al. Internal medicine, 2020





# Projects

【リサーチ】コロナパンデミックの心理社会的影響  
～医療従事者のメンタルヘルスと支援者支援の実態調査～

コロナ患者対応医療従事者のうち...

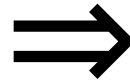
<感染拡大初期>

「**31%** バーンアウト  
(看護師47%)」

@聖路加国際病院(2020年4月)<sup>1</sup>

「**27.9%** 抑うつ」

@日赤医療センター(2020年4-5月)<sup>2</sup>



<3年経過>

地域差?

現状は?



リスク因子?

保護因子?

(Source)

1. Matsuo et al. JAMA network open, 2020

2. Awano et al. Internal medicine, 2020



# Projects

【リサーチ】コロナパンデミックの心理社会的影響  
～医療従事者のメンタルヘルスと支援者支援の実態調査～

コロナ患者対応医療従事者のうち...

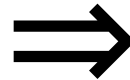
<感染拡大初期>

「**31%** バーンアウト  
(看護師47%)」

@聖路加国際病院(2020年4月)<sup>1</sup>

「**27.9%** 抑うつ」

@日赤医療センター(2020年4-5月)<sup>2</sup>



<3年経過>

地域差?

現状は?



リスク因子?

保護因子?



コロナパンデミック下で活動する医療従事者に対して、施設内でどのようなメンタルヘルスサポートと心理社会的支援が行われたのか?

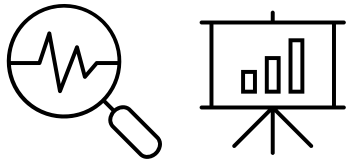
1. Matsuo et al. JAMA network open, 2020

2. Awano et al. Internal medicine, 2020



# Projects

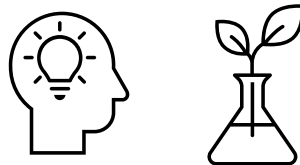
## リサーチ



後ろ向き

(活動の分析評価による教訓の抽出)

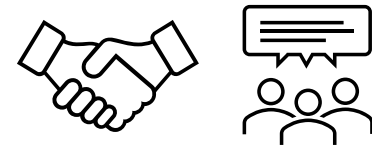
## リソース開発



前向き

(ガイド・リソース・モデル等の開発)

## コンサルティング



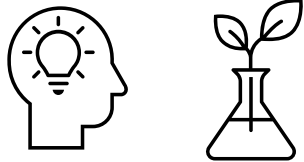
現場の今の困り事

(関与しながらのテクニカルな伴走支援)



# Projects

## リソース開発



前向き

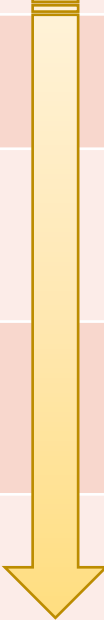
(ガイド・リソース・モデル等の開発)

### <課題意識>

多様な立場、職種、バックグラウンドの支援者が活動する災害支援現場。

Do no harmに根差した支援の「型（心構え）」をいかに職種や専門性の垣根をこえて共有できるか？

# 日本におけるPFA普及

	赤十字版PFA	WHO版PFA	子どものためのPFA
2003年	IFRCが心理社会的支援の包括研修マニュアルを刊行（英語）、PFAを支援の基本的原則と位置づけ各国で普及開始		
2009年	IFRCが上記マニュアルを改訂（英語）、PFAを研修の主要モジュールの1つに格上げ、各国で普及開始		
2011年	 <p>日赤では東日本大震災以前からIFRCの研修モジュールを取り入れPFA研修を開始していたが、日本語マニュアルがなく、呼称も「こころの救急法」と独自であったため、団体間の共通言語づくりに課題があった。</p>	WHO、War Trauma Foundation、World Vision InternationalがPFAマニュアルを刊行	
2012年		国立精神・神経医療センター、ケア・宮城、(公)プラン・ジャパンが日本語訳WHO版PFAマニュアル発行	
2013年			Save the Children Denmarkが中心となり、WHO版PFAをもとに子どものためのPFAマニュアルを刊行
2016年			Save the Children Japanが日本語版子どものためのPFAマニュアルを刊行
2018年	IFRCがWHO版およびSave the Children版PFAをもとにPFAガイドと研修マニュアルを改訂（英語）、独立研修として各国で普及開始		



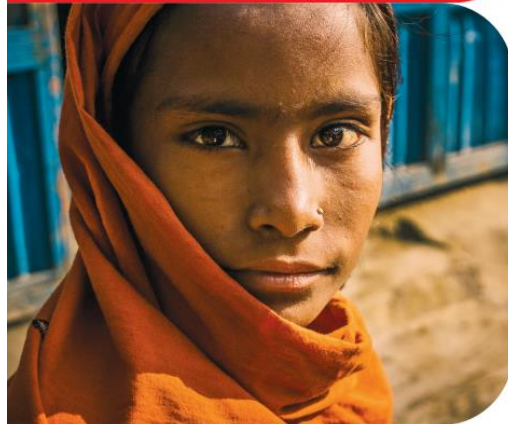
# Projects

## 【ギャップを埋めるリソース開発】

～現場の実務家のための共通言語づくり～

### PFAガイド

サイコロジカル・ファースト  
エイド (PFA) ガイド



赤十字・赤新月社版

Psychosocial Centre  
International Federation  
of Red Cross and Red Crescent Societies

### 支援者支援ガイド

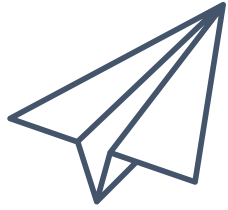


危機的状況における  
職員とボランティアへの  
ケアに関する  
ガイドライン

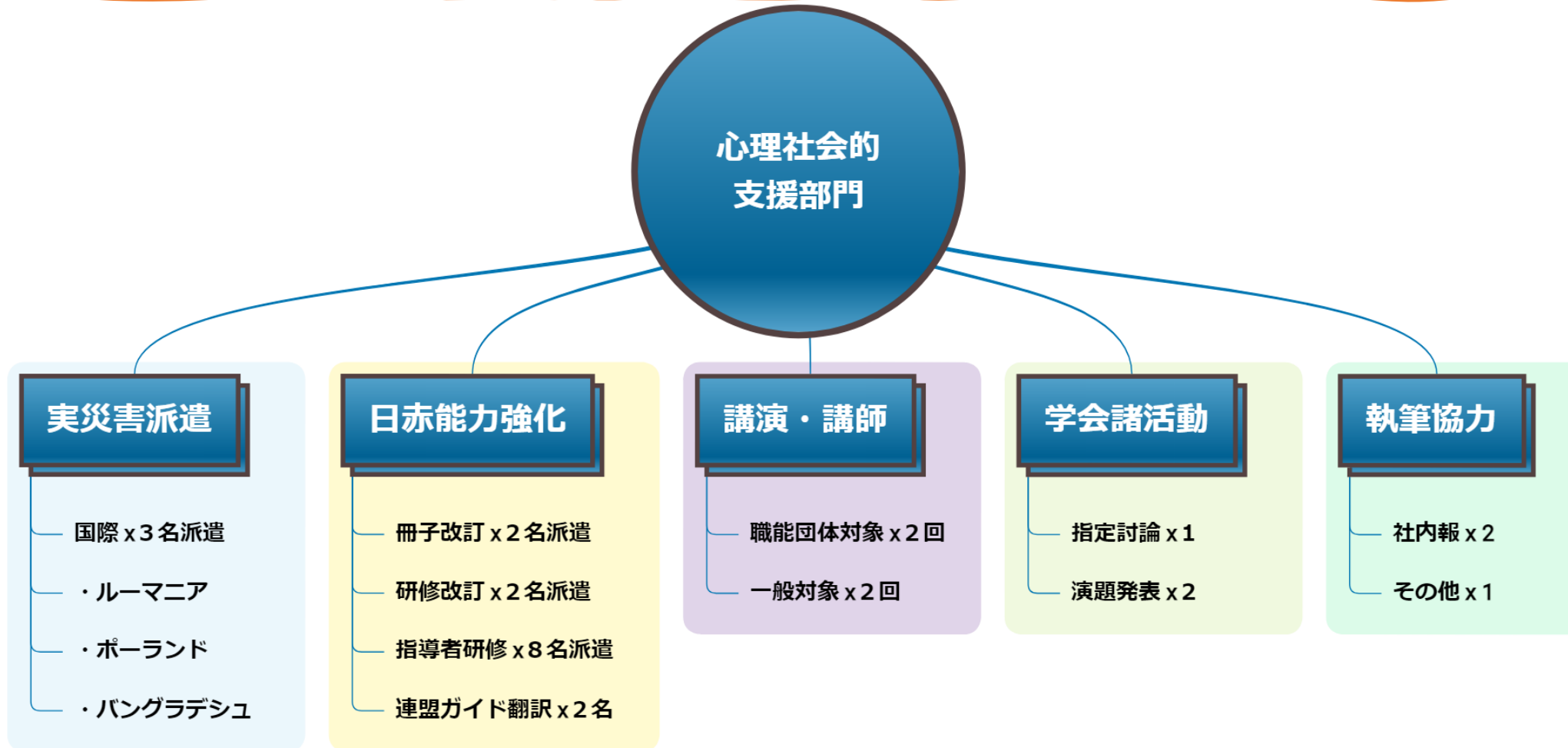
www.ifrc.org  
Saving lives, changing minds.

Psychosocial Centre  
International Federation  
of Red Cross and Red Crescent Societies

2023年4月以降、[災害救護研究所Website](#)にて順次公開予定。



# R4年度 社会貢献 & 情報発信



部門活動実績の詳細は[災害救護研究所Website](#)にて公開予定。



# 謝辞

ご清聴ありがとうございました。  
本日、十分にご紹介できなかった様々なサ  
ポーター、パートナーの皆様からのご支援、  
ご指導にも感謝申し上げます。